

# このひと

～ Special Interview ～

## 闘いは、明るく、 楽しく、しつこく 理不尽な立場の人に 講談で寄り添う

講談師、NPO 法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク代表

かんだ かおり

### 神田 香織さん

落語、浪曲と並び、日本三大話芸の一つと言われる講談。神田さんは、「はだしのゲン」「チェルノブイリの祈り」「哀しみの母子像」「稲むらの火―浜口梧陵伝」「フラガール物語―常磐炭礦余聞」など、戦争や防災をテーマとした作品に取り組み、人々の悲しみ・怒り・思いを声にしてきた。

福島県いわき市の出身。海に近く豊かな自然の中でのんびり育った。「結婚して家庭に入るまでは好きなことをしよう」と新劇の劇団に入団。その後、発声練習のつもりで習い始めた講談に惹かれた。

講談師になろうと神田一門で修行を重ね、そろそろ「新作に挑戦したい」と考えていた折、旅行先のサイパンで見た戦争の爪痕にショックを受けた。戦争や原爆についてあらためて考える中で、命の大切さをテーマとして語っていきこうと、「はだしのゲン」の作品化を決めた。そして講談を発表する矢先、チェルノブイリ事故が起こった。「原爆を語ろうとしていたときに、原発で大変なことになった」と感じたそうだ。消防士夫婦の哀しい体験を作品にした「チェルノブイリ



撮影：青木千恵 (NPO 法人男女共同参画おた副理事長)

の祈り」をはじめ、その後一貫して、理不尽な立場に置かれた人に寄り添う作品に取り組んできた。「語り続けて20年以上経った今でも、戦争中の雰囲気、被ばくした人の痛みを常に引きずって歩いていると感じる」と語る。

そして、東日本大震災が起こった。原発事故に関して、「真実に口を閉ざす国の姿勢は、戦時と変わっていない」と憤る。「分断されないように、横につながっていきこう」とNPOを立ち上げ、故郷福島復興支援活動を始めた。子どもたちの保養活動に取り組み、震災・原発事故の中で苦しんでいる人々の言葉を公演の場で伝えている。

「チェルノブイリの祈り」の講談後、「なぜ国はちゃんとそういうことを教えてくれないんだ」と号泣していた高校生がいた。「人の感情に訴え、感情を湧き起こしてもらうのが講談」と神田さん。湧きあがった感情を、「自分がまっとうな世の中をつくるんだ」という未来への糧にして欲しいと思う。そのためのコツは、「明るく、楽しく、しつこく、あきれ果ててもあきらめない」こと。声を出しつながることが、未来を創っていく。

神田香織さん公式 HP (オフィスババン) <http://www.ppn.co.jp/kannda>

NPO 法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク <http://www.support-fukushima.net>